

# 上淀廃寺(米子市淀江町)

かみよどはいじ

ここは上淀白鳳の丘展示館/この背後に上淀廃寺が所在する



説明板が立っている





上淀廃寺の周辺には向山古墳群や妻木晩田遺跡といった弥生時代の大集落跡などが密集している

## 向山古墳群（国指定史跡）

淀江平野東部の独立丘陵の向山と嶽山にある古墳群及び福岡集落の南にある石馬谷古墳からなる古墳群です。

岩屋古墳(向山1号墳)は、全長52.0m、2段築成で葺石を持つ前方後円墳です。水鳥、人物などの形象埴輪が出土しています。後円部に天井と各壁が一枚の巨石で作られている前・後室からなる横穴式石室が開いています。石室は古くから開口しているため副葬品はほとんど散逸していますが、金銅製の馬具などが出土しています。

向山4号墳は、古墳群のなかで最大規模の全長64.5mの前方後円墳で、くびれ部に造出があります。墳丘は2段築成で葺石がめぐっています。

石馬谷古墳(小枝山5号墳)は、全長61.2mの前方後円墳で墳丘は2段築成で葺石がめぐっています。石馬が立てられていたと伝えられています。

発掘調査などの結果から、向山古墳群は5世紀後半から6世紀後半に造営され、大型の前方後円墳を含む鳥取県西部の西伯耆地域を代表するもので、古墳時代の政治動向や地域との交流を知る上で学術的価値の非常に高いものです。



向山古墳群（岩屋古墳石室）

## 上淀廃寺跡（国指定史跡）

淀江平野の東側、日本海を望む大山山麓にある古代寺院跡です。

平成3年(1991年)の発掘調査によって、彩色壁画の破片が発見され一躍全国的な注目を集めることとなりました。壁画には、「菩薩」「神将」「天衣」など様々な図容が確認されています。また、塑像の破片も多量に発見されています。金堂内には、如来、菩薩などが安置され、周囲は彩色壁画で荘厳されていたと考えられています。

寺院の伽藍配置は、西に金堂、東に塔(中塔)という配置を基本としています。中塔の南北に二塔を配し、三塔が南北に並ぶ特異な配置が明らかになりました。(北塔は心礎のみ)金堂、塔の基壇は瓦積基壇で、外側に石列を巡らしています。中心伽藍北側の一段高い丘陵には寺院の付属施設と造営氏族の居館と考えられる掘立柱建物跡が確認されています。

出土した大量の瓦の中から「癸未年」の文字を刻んだものが発見されました。「癸未年」は、天武天皇12年(683年)の可能性が高く、上淀廃寺の創建年代に近いと考えられています。寺院は10世紀前後に焼失したと推定されています。

多量に出土した壁画片、塑像片から古代寺院の堂内を発掘資料により復原しうる例として注目されており、地方の有力氏族によって造営された白鳳時代の寺院の具体的な有様を知ることもできる貴重な遺跡です。



妻木晩田遺跡 復元竪穴住居



上淀廃寺跡

## 妻木晩田遺跡（国指定史跡）

米子市淀江町と西伯耆大山町にまたがる大山北麓の丘陵上に展開している集落遺跡です。妻木晩田遺跡のある通称「晩田山」には、古くから遺跡が存在することはわかっていたが、ゴルフ場開発に伴う大規模な発掘調査によって弥生時代の「ムラ」が姿を現しました。

弥生時代後半を中心とする400棟以上の竪穴住居及び500棟以上の掘立柱建物跡、30基以上の墳墓などが確認されています。

発見された竪穴住居は、円形、多角形、隅丸方形、三角形など多様な平面形をしています。また、焼失住居が20棟ほど確認され、詳細な分析により、竪穴住居の屋根の力ヤの上に土をかぶせた土屋根住居の構造も明らかになり復元されています。掘立柱建物は、平地式または高床式の倉庫と考えられるものがほとんどですが、9本柱で構成される総柱の建物や底を持つ大型建物もあります。

墳丘墓は、山麓地方に特徴的な四隅突出型墳丘墓など有力者の存在をうかがわせるものが確認されています。

また、最西端の位置に弥生時代後期前半の環壕も発見されています。

妻木晩田遺跡は、弥生時代の集落の全体像を知ることができ、さらに、集落構造の変遷がたどれる貴重な遺跡です。

## 石馬（国指定重要文化財）

大山から産出される角閃石安山岩から削り出して作られた石製の馬です。現存で、体長約15cm、高さ約90cmを測ります。

天神垣神社の境内で石馬大明神として祀られてきました。出土地ははっきりとしませんが、6世紀中頃の築造と推定される石馬谷古墳(前方後円墳、全長約61.2m)に立てられていたといわれています。石馬の胴体と後脚は補修接合されていますが、前脚は失われています。鞍、手綱、籠などの馬具が装着された状態を細かく写實的に表現しています。また、たてがみ、面長な顔など馬の特徴がよくとらえられています。一部に赤色顔料が残っており、過去には、馬全体が赤色にぬられていた可能性が指摘されています。

なお、この石馬と同じ石材を使用してつくられた石人の下半身と考えられる石製品もあります。

石馬が樹立されていたと考えられている石馬谷古墳が6世紀中頃に築造されていることから、この石馬も古墳時代のもので推定されています。

石馬は、岩戸山古墳をはじめとして九州北部に数例ありますが、本州ではこの石馬が唯一のもので、古墳時代後期における九州との交流の一端をうかがい知ることのできる貴重な資料です。

平成20年3月 鳥取県教育委員会



淀江のサイノカミ出版記念の碑らしい





現地見学の前に、展示館を見てみよう



# 古代のよどえ

Yodoe of the ancient times  
고대의 요도에

3世紀後半から始まる古墳時代には、列島各地の豪族が畿内を中心としたヤマト政権の政治社会に組み込まれ、各地で大小様々な古墳が造られました。淀江平野においても数多くの古墳が築造され、山陰有数の古墳密集地帯として知られています。

8世紀以降、中国にならった律令体制がしかれ、天皇を中心とした国家が成立すると、淀江平野を含めた地域には、地方の行政を担う汗入郡が置かれました。また、この頃、交通網の発達により淀江平野を東西に走る古代山陰道が設置され、陸上交通の要所としても発展していきました。

## 淀江の古代の生活・文化

Life and the culture of the ancient times of Yodoe  
요도에의 고대의 생활 문화

古墳時代には、淀江平野周辺だけで約400基の古墳が築かれます。中でも5世紀終り頃から6世紀にかけては、より広域に支配を及ぼした首長の墓=古墳が築かれ、西伯耆地域の中心地であったと考えられます。6世紀代はここ福阿地区がその本拠地となり向山古墳群が造営されます。群中最大の全長65mを誇る4号墳をはじめ、切石の横穴式石室を有する岩屋古墳、金銅製冠の出土した長者ヶ平古墳があり、その南側には本州唯一事例となる石馬が設置されていたとみられる石馬谷古墳が確認されています。

律令体制下において、現在までに汗入郡の中心施設である郡衙の所在は確認されていませんが、楚利遺跡では、瓦・白軸緑彩陶器・石帯などが出土しており、関連した古代の役所跡の可能性も指摘されています。

奈良時代以降、全国各地で方形区画に水田を整備した条里制が布かれましたが、ここ淀江平野の水田地帯においても、その名残が見られ、古代の風景を今に伝えています。



重要文化財 石馬



後田山古墳群と条里 (古墳時代末期)

	百塚古墳群	中西尾古墳群	向山古墳群	小鉢山古墳群	後田山
500					●
400				●	●
300	●	●	●	●	●
200	●	●	●	●	●
100	●	●	●	●	●
0	●	●	●	●	●

淀江平野主要古墳の位置 (数字のみものは遺跡の存在を示しています)



# 淀江の古代の生活・文化

Life and the culture of the ancient times of Yodoe

요도에의 고대의 생활, 문화

古墳時代には、淀江平野周辺だけで約400基の古墳が築かれます。中でも5世紀終り頃から6世紀にかけては、より広域に支配を及ぼした首長の墓=古墳が築かれ、西伯耜地域の中心地であったと考えられます。6世紀代はここ福岡地区がその本拠地となり向山古墳群が造営されます。群中最大の全長65mを誇る4号墳をはじめ、切石の横穴式石室を有する岩屋古墳、金銅製冠の出土した長者ヶ平古墳があり、その南側には本州唯一事例となる石馬が設置されていたとみられる石馬谷古墳が確認されています。

律令体制下において、現在までに汗入郡の中心施設である郡衙の所在は確認されていませんが、楚利遺跡では、瓦・白釉緑彩陶器・石帯などが出土しており、関連した古代の役所跡の可能性も指摘されています。

奈良時代以降、全国各地で方形区画に水田を整備した条里制が布かれましたが、ここ淀江平野の水田地帯においても、その名残が見られ、古代の風景を今に伝えています。



主な遺跡の分布

	百塚古墳群	中西尾古墳群	向山古墳群	小枝山古墳群	晩田山
西暦 300					■ 11
400	● 65 ● 74 78 ● 71 ● 76 ● 82 ● 87 ● 110	● 日吉塚 ● 井手挾3 ● 西尾原2	■ 向山2	● 上ノ山	● 17 ■ 13 ● 14 ● 16
500	● 83 ● 88 91 100 ● 94 ● 97 ● 99 ● 101 102 ● 103 105 107 ■ 104 ● 102 ● 101 102 103 ● 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112	● 西尾原3 ● 西尾原1	■ 向山4 ● 向山7 ■ 向山5 ■ 向山6 ● 向山8 ■ 長者ヶ平 ■ 岩屋	■ 小枝山12 ■ 石馬谷	● 18 ● 19 ● 20 21
600	● 41 ● 39 ● 42 50 53 56 57		■ 岩屋 ● 向山9 ●		● 15

淀江平野主要古墳の変遷(数字のみのものは古墳の号数を示しています)

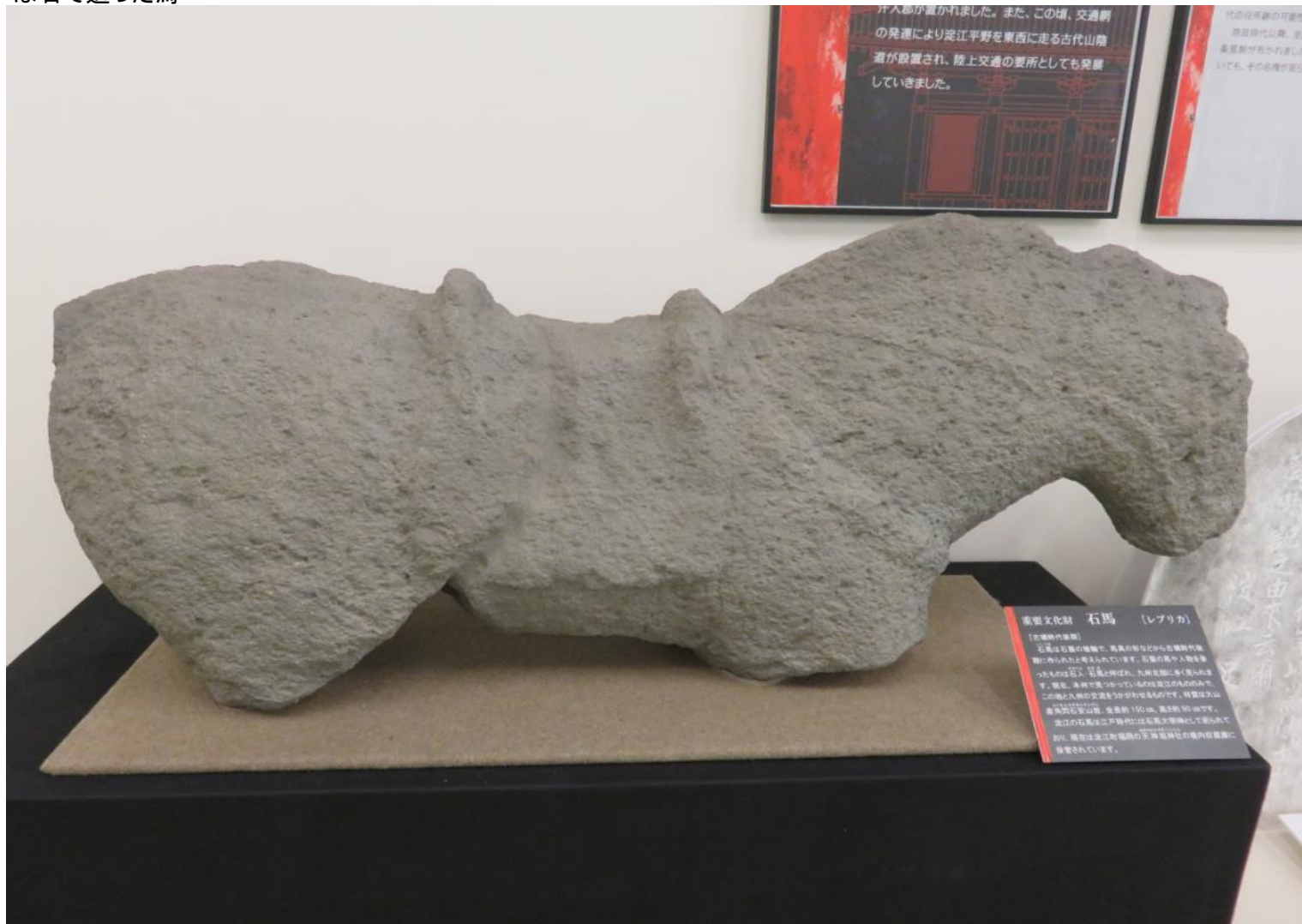


重要文化財 石馬



史跡 向山古墳群と石馬 (古墳時代後期)

これが向山古墳群の石馬谷古墳に立てられていたと云う珍しい石馬/当時は大変貴重だった馬は埴輪などで見られるが、これは石で造った馬



重要文化財 石馬 [レプリカ]  
【お堀内古墳】  
石馬は石製の埴輪で、奈良の野間から古墳時代中期に作られたと考えられています。石製の馬や人物を造ったものは石人・石馬と呼ばれ、九州北部に多く見られます。埴輪、埴土で作ったものは奈良時代の中期から、この石馬は、埴土の改良によって作られたものです。埴土は山形県に産出します。全長約100cm、高さ約100cmです。この石馬は江戸時代の正倉院の境内に保存されています。



線刻画が刻まれている土器

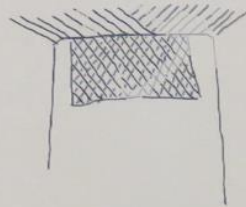




鹿?



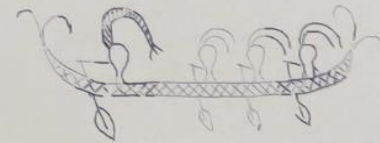
銅鐸?が吊るされた樹木



倉庫?



高層の建物



四人が乗った舟



太陽



家形埴輪



家形埴輪

上ノ山古墳(古墳時代中期)

別の角度から





さて、これは上淀麿寺の寺院中心部の模型/飛鳥時代後期(7世紀後半の白鳳期)に建てられた寺院の跡で、金堂の東に3塔を南北に配するという、他に例をみない独特の堂塔配置となっている



この地域を支配していた豪族の氏寺と考えられている/平成3年(1991年)からの発掘調査で国内最古級仏教壁画片が大量に出土し、飛鳥時代の堂塔内部を復元しうる数少ない寺院跡/堂塔以外にも倉庫など多くの付属施設をもつ、地方では大規模な寺院で、壁画片の他、仏像片、瓦、土器、鉄器などが出土している/古代社会制度の崩壊が進む平安時代中頃(11世紀初め)に焼失してしまったらしい

## ダンボールクラフト 上淀廃寺



(国史跡 上淀廃寺跡)

### 上淀廃寺とは…

上淀廃寺は、飛鳥時代後期(7世紀後半)に米子市淀江町福岡の上淀集落の上方の丘に建立された古代寺院です。当時この地域を支配していた豪族によって建てられた、豪族の氏寺と考えられています。しかし、この寺院に関する文献等がないため、この寺院の名前や建立した豪族の素姓等は、今でも分かっていません。

### 上淀廃寺最大の謎…

これまでの発掘調査で、廃寺跡から塔の心柱を支える礎石(心礎)が南北方向に並んで3つ発見されたことから、金堂の東側に塔を南北に三つ並べた『三塔一金堂』の伽藍配置の寺院であることが判明しました。しかし、このような伽藍配置の寺院はこれまでの国内の発掘調査では類例がなく、なぜ三塔一金堂の伽藍配置にしたのか、その建立の意図は何か、背景にある設計思想とは等々。三塔一金堂の伽藍配置は、今でも上淀廃寺の最大の謎とされています。

### 北塔は建てられていたか……?

発掘調査では、南塔と中塔の跡からは心礎と基壇(基礎)が発掘されており、塔が建てられていたことが明らかになっています。しかし、北塔からは心礎のみが発見され、基壇が確認されていません。このことから北塔は建設されていなかったという説と建設されていたが、何らかの理由で消滅し、北塔の心礎のみが残ったという説の2説があります。

### 復元された復元模型

ダンボールクラフトの上淀廃寺は、三塔が建てられていたものと想定して復元されています。上淀廃寺の想像復元図だけをたよりに、ダンボールの生地の特徴を活かしながら、建物の細部にまでこだわり、約2ヶ月間を要して制作されました。



(上淀廃寺想像復元図)

### ダンボールクラフト 上淀廃寺

【制作者】	【サイズ】	【縮尺】
原 禎 幸 氏	金堂 たて 17 cm よこ 20 cm 高さ 15 cm	約 1/60 倍
	塔 たて 15 cm よこ 15 cm 高さ 40 cm	



これは石製の相輪のようだ



石製の相輪？  
信濃江野寺（時代不明）  
「ナナカリサン」と呼ばれ、上野原寺北西部に所  
在した本堂に伝来した石造物。石造ないし、そ  
の一部分とする説、上野原寺中大日如来の相輪（阿彌陀  
の相輪）であるとする説がある。

これは壁画片の出土状況





これは当時の人の足跡

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



#### 上浣廃寺金堂北側で確認された足跡

金堂のすぐ北側、平瓦の下になって、奇跡的に残っていた。ぬかるんだ地面に裸足の足跡が付いたもので、足指の跡も生々しく残る。すぐ上に焼けた土がのっており、焼失の際に付いたものとみられる。

「癸未年」と刻まれた瓦片が見つかり、683年に当たると考えられることから、この頃に上淀麿寺が造営された考えられると云う

## 建立の経緯と経過

Process and progress of the erection  
건립의 경위와 경과

上淀麿寺は千支年号〔癸未年〕=天武12年・683年)の書かれた瓦などから、7世紀終り頃には造営に着手したと考えられます。ただし当時の寺院造営は大事業で、記録の残る中央寺院同様に、上淀麿寺も数十年という期間をかけて整備されたと考えられます。

8世紀初め頃には、半丈六級の如来像を本尊とし、中心部の堂塔は一応完成したものと見られますが、続く8世紀中頃以降には金堂を中心に屋根の補修や、本尊の入れ替えなど改修された痕跡がうかがえます。平安時代までには堂塔の荒廃が進み、11世紀初め頃、焼失したと考えられます。

時代	西暦	日 本	東アジア世界
古墳時代	527	筑紫国造韓井の反乱が起こる。 このころ南山4号墳築かれる。	
	530		新羅、初めて仏法を行う。
	538	仏教伝来(元興寺縁起)。以後、物部・蘇我氏の抗争つよまる。 このころ長狭ヶ平古墳築かれる。 このころ石西谷古墳築かれる。	
	587	蘇我・物部氏の抗争激化。物部守屋が連勝される。 このころ姫屋古墳築かれる。	
飛鳥時代	588	吉清が仏舍利・寺工・瓦工・建築工・園工などをおこる。 法興寺(飛鳥寺)の寺社を定む。	
	589		隋が中国を統一。
	593	法興寺(飛鳥寺)の社壇に仏舍利を納め、利社をたてる。	
	594	三室開隆の詔を奉じ、塔・道ら築って寺をつくる。	
	618		隋滅び、唐がおこる。
	624	この年、天下の寺数46、僧尼数1385人という。 このころ鞍馬山31号墳築かれる。	
	645	大化の改新、仏教興隆の詔出される。 このころ大聖堂(真言寺)、野方・勿院ヶ平(東照寺)など旧来の寺、築かれ始める。	
	660		百濟滅亡。
	663		白村江の戦い。
	668		高句麗滅亡。
奈良時代	669	斑鳩寺(法興寺)創興、再建始まるが、	
	672	壬申の乱。飛鳥浄御原宮に遷都。	
	680	東大寺造営を始める。	
	683	このころ上淀麿寺創建。	
	685	天武天皇創設して法興寺。奉ことにおきを作らしめ、仏像、経をおく。	
	692	醍醐寺(宇田市)蓋の壬辰年銘観音菩薩立像つくられる。 このころ教養寺(安来市)創建。 このころ天下の諸寺およそ545寺となる。	
	710	平城京に遷都。百濟の伊婁吉那弥使比売が火葬にされる。 このころ出雲に新法院10カ所造られる。	
	713	風土記の撰定を命ずる。 このころ柏耆・因幡国風土記(教養)改述か。	
	716	山上博良、伯耆守に兼任する。	
	733	出雲国風土記勅命される。	
平安時代	739		新羅、朝鮮半島統一。
	741	聖武天皇、園分寺・園分尼寺建立の詔を出される。	
	752	東大寺大仏開眼供養行われる。 このころ柏耆・因幡国の園分・園分寺、園分尼寺建立される。 (真吉市・園町)。	
	759	大伴旅村、因幡守に兼任する。 このころ上淀麿寺の本尊、丈六三尊像に替わる。	
	788	善澄、醍醐寺を創建する。	
	1000	このころ上淀麿寺焼失する。	

上淀麿寺関係年表

## 上淀麿寺の伽藍

The Buddhist monastery of Kamiyodo hajji temple  
가미요도제사의 가람

全体の地形から見た創建時の境内は、東西2町(約212m)、南北は推定1町(約106m)と想定されます。境内の広さは古代伯耆国(現在の鳥取県中西部)では大御堂麿寺や斎尾麿寺とほぼ同じで、地方では最大規模の寺院といえます。

境内のほぼ中央には、金堂や塔が配置され、その周辺に関連物が確認されています。これらは経蔵または鐘樓、政所または食堂、倉庫と推定されます。この他にも広大な境内には僧房、厨などの建物や、花園院・薬園院などの施設が営まれ、寺の運営を支える施設や建物が置かれていたことでしょう。



上淀麿寺跡全体図



## 金堂が再現(復元)されている

### 金堂の復元方針

The reconstruction policy of the inner temple  
금당의 복원 방침

金堂とは、寺院の中でも本尊を安置する中心  
的な建物です。上醍醐寺の金堂は、白鳳期の7  
世紀終り頃建立された後、奈良時代の8世紀中  
頃に改修された可能性があります。造営されて  
以降建て替えられた痕跡はなく、平安時代後期  
の11世紀初めに焼失したと考えられます。

この来歴にのっとり、金堂全体は創建時期の  
白鳳期の建物を想定して、展示室の構想を練り  
ました。

### 建築の復元設計

The reconstruction design of the building  
건축 복원 설계

この金堂は、東西北面が壁画で飾られ、8世紀後半  
に安置されたと思われる丈六級如来像や建てられた時  
期の近い寺院建築の事例を参考に作り上げています。

平面形式は、創建年代や規模に近い杉崎廃寺(岐  
阜県飛騨市)にならい、出土遺物から復元される丈六  
級如来像を含む三尊が納まる規模としました。

法隆寺金堂にあらば柱はふくらみ(胴張)のある  
円柱だった可能性が考えられますが、上醍醐寺は柱  
間寸法があまり大きくなかったと考えられるため、扉  
や窓が無理なく納まるよう胴張の少ない薬師寺東塔  
に近い形状と考えました。柱上部の組物の規模や様  
式は、基壇と屋根の関係から軒の出が大きい建築で  
あったと考えられるため、創建時期も近い薬師寺東塔  
を参考にしました。

内部空間は、天井画も含め、飛鳥・白鳳期の唯一  
の現存事例である法隆寺金堂を参考にしています。  
ただし建物規模から見て、内陣の壁は無かったもの  
と考えられます。



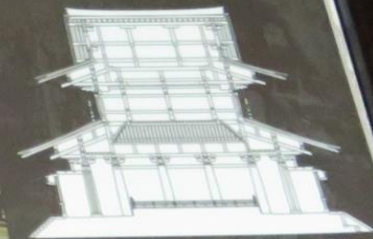
上醍醐寺金堂復元南立面図  
(屋根が付いた状態の想定図)



上醍醐寺金堂の発掘状況  
(2005年上醍醐寺跡第15次調査時)



薬師寺東塔 (建塔年代: 天平2(730)年)  
(写真: 飛鳥園)



法隆寺金堂断行断面図  
建築年代: 天武7(678)年頃

仏像も再現されている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





さて、ここが上淀廃寺跡/なだらかな丘陵の南側一面が境内として造成されていて、北と西辺では土塁とともに境界をなしていたと見られる溝跡が確認されている/地形や中門の位置から南側に大門があったと考えられるが、これまで確認されておらず、地形的に消滅している可能性が高いと見られている/南側から見たところ



説明板/金堂や塔が配置される中心伽藍が位置し、その周辺に経蔵または鐘樓、政所または食堂、倉庫と推定される建物などが確認されている/他寺院の記録を見ると、この他にも僧坊や客坊、厨、大炊屋などの施設や、花園院、薬園院などが営まれていたものと想定されると云う/周辺には向山古墳群や、妻木晩田遺跡といった弥生時代の大集落跡などが密集している

かみ よど はい し あと  
**国指定史跡 上淀廃寺跡** Ruins of Kamiyodo Haiji Temple  
 National Historic Site 국가지정사적 가미요도폐사터

上淀廃寺は、飛鳥時代(7世紀終り頃)に建立された寺院です。平成3年(1991)からの発掘調査で国内最古級の壁面片が大量に出土し、この時代の堂塔内部の華やかな様子を復元できる数少ない寺院跡として、平成8年(1996)に国の史跡に指定されました。

この寺院の特徴は金堂の東に3つの塔を南北に配する建物配置です(建立が確実なのは、うち2塔)。他の古代寺院に例が無く、独創的な設計思想が窺えます。

寺院の名称や建立者についての記録はありませんが、堂塔以外にも倉庫など多くの付属施設をもつ大規模な寺院で、壁面片の他、壁像の断片、瓦・土器・鉄製品などが出土しています。古代社会が終わりを告げようとする平安時代中頃(11世紀初め)に焼失しました。

公開にあたっては、発掘調査の結果に基づき、盛土で遺跡を保護した上に当時の地形を復元し、建物跡等は元あった位置の真上に表示しています。中心部では出土状況を忠実に再現したり、当時の基壇の復元を行っています。

**寺院の中心部**



**付属建物と先行建物群**

The annex to the temple and previously built remains



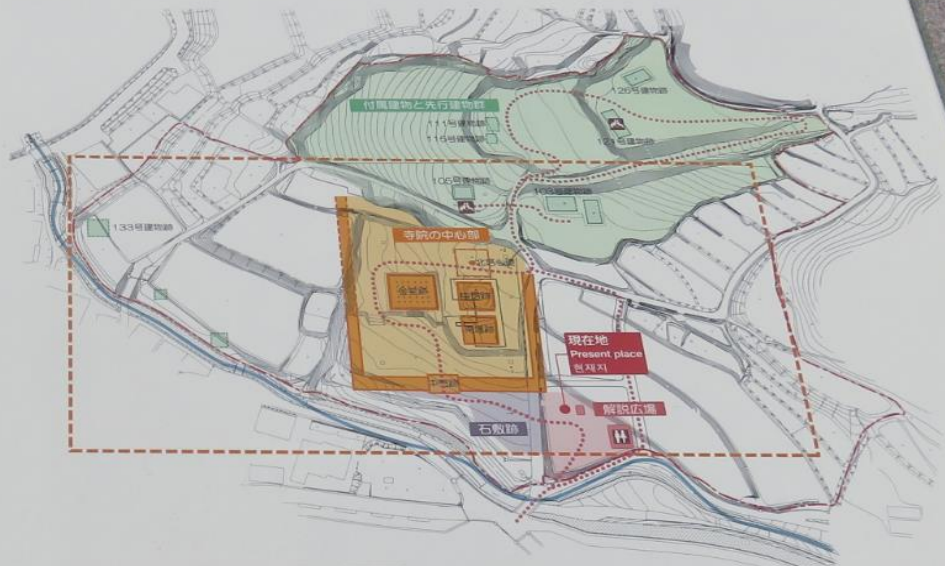
**石敷跡**

The Stone Floor Ruins



全体の地形から見た上淀廃寺の境内は、東西2町(約212m)、南北は推定1町(約106m)と想定されます。境内の広さは古代伯耆国(現在の鳥取県中西部)では大御堂廃寺(倉吉市)や斎尾廃寺(琴浦町)とほぼ同じで、地方では最大規模の寺院といえます。なお、南側にも区画施設と南大門があったと考えられますが、これまでの調査では確認されていません。

境内のほぼ中央には、金堂や塔が配置され、その周辺に関連建物が確認されています。これらは経蔵または鐘樓、政所または食堂、倉庫と推定されます。この他にも広大な境内には僧房、厨などの建物や、花園院・薬園院などの施設が営まれ、寺の運営を支える施設や建物が置かれていたものと考えられます。



- 史跡の指定範囲
- 当初の境内範囲(推定)
- 古代の相谷川(推定)
- 園 跡
- トイレ
- 休憩所



■ゴミは各自必ずお持ち帰りください



上淀麿寺は、飛鳥時代(7世紀終り頃)に建立された寺院です。平成3年(1991)からの発掘調査で国内最古級の壁画片が大量に出土し、この時代の堂塔内部の華やかな様子を復元できる数少ない寺院跡として、平成8年(1996)に国の史跡に指定されました。

この寺院の特徴は金堂の東に3つの塔を南北に配する建物配置です(建立が確実なのは、うち2塔)。他の古代寺院に例が無く、独創的な設計思想が窺えます。

寺院の名称や建立者についての記録はありませんが、堂塔以外にも倉庫など多くの付属施設をもつ大規模な寺院で、壁画片の他、塑像の断片、瓦・土器・鉄製品などが出土しています。古代社会が終わりを告げようとする平安時代中頃(11世紀初め)に焼失しました。

公開にあたっては、発掘調査の結果に基づき、盛土で遺跡を保護した上に当時の地形を復元し、建物跡等は元あった位置の真上に表示しています。中心部では出土状況を忠実に再現したり、当時の基壇の復元を行っています。

### 寺院の中心部

The central area of the temple  
사원 중심부





## 付属建物と先行建物群

The annex to the temple and previously built remains  
부속건물과 선행 건물군



## 石敷跡

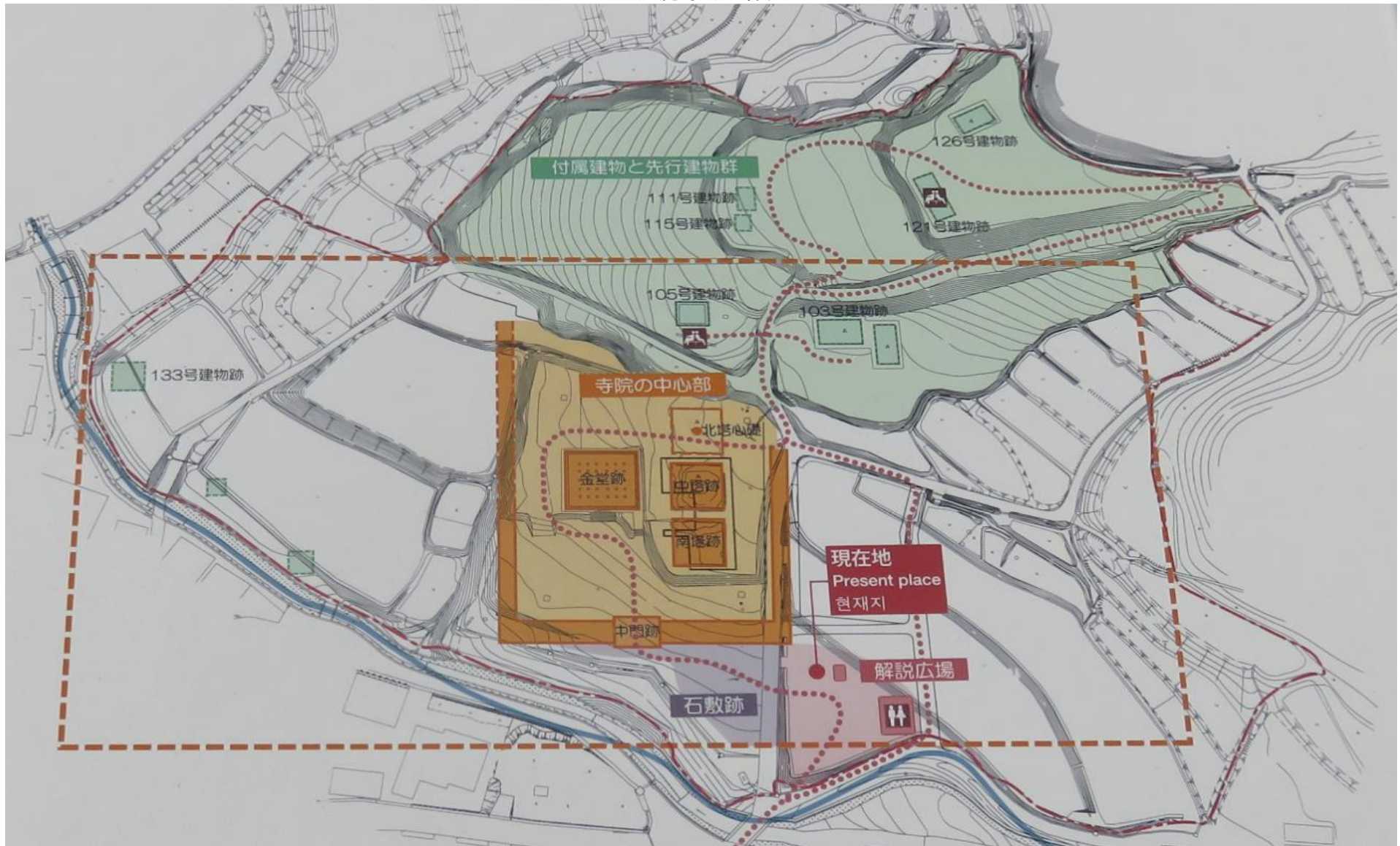
The Stone Floor Ruins  
돌이 깔려 있던 곳



全体の地形から見た上淀廃寺の境内は、東西2町(約212m)、南北は推定1町(約106m)と想定されます。境内の広さは古代伯耆国(現在の鳥取県中西部)では大御堂、廃寺(倉吉市)や齋尾廃寺(琴浦町)とほぼ同じで、地方では最大規模の寺院といえます。なお、南側にも区画施設と南大門があったと考えられますが、これまでの調査では確認されていません。

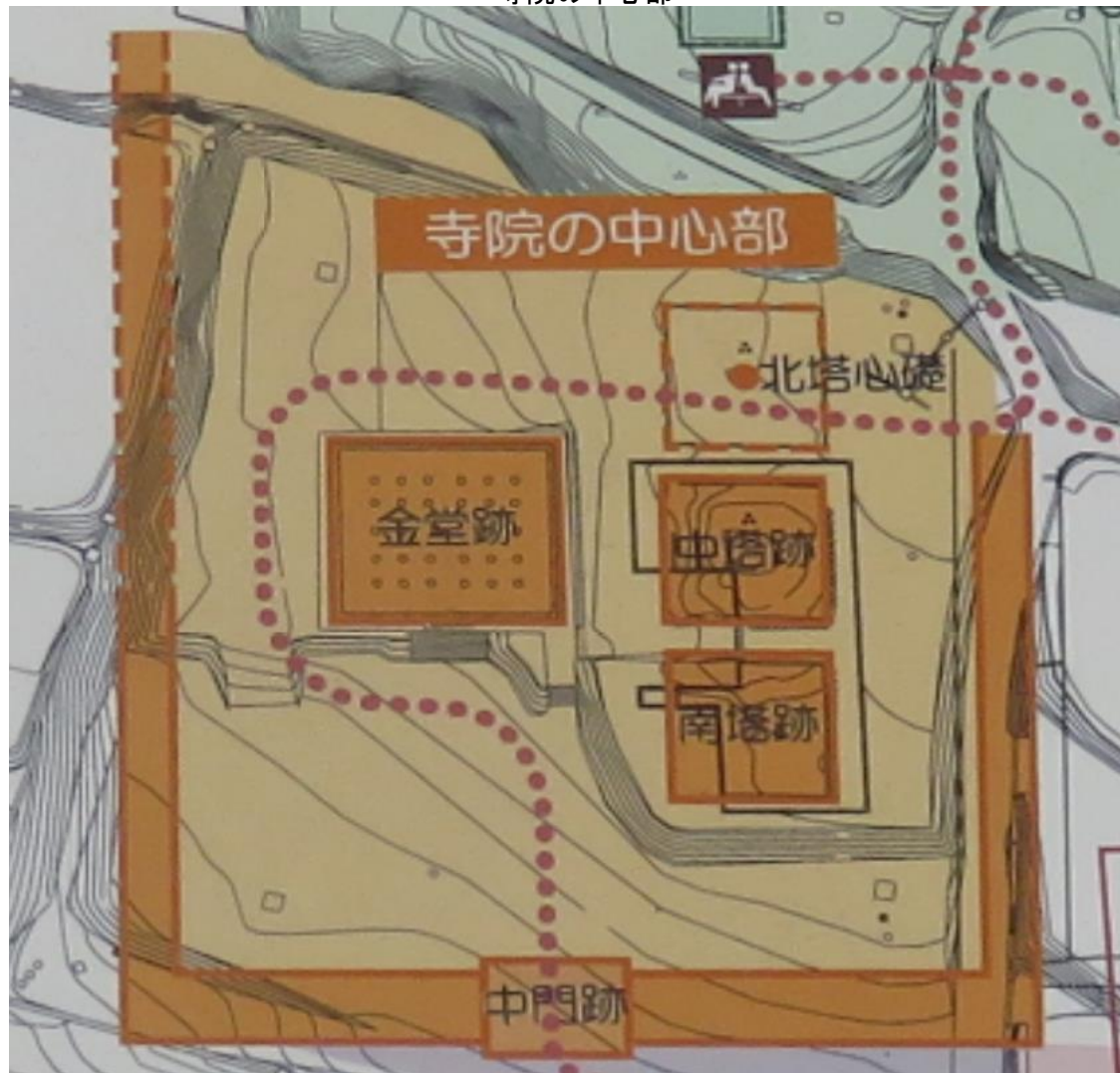
境内のほぼ中央には、金堂や塔が配置され、その周辺に関連建物が確認されています。これらは経蔵または鐘楼、政所または食堂、倉庫と推定されます。この他にも広大な境内には僧房、厨などの建物や、花園院・薬園院などの施設が営まれ、寺の運営を支える施設や建物が置かれていたものと考えられます。

上淀麿寺跡全体図





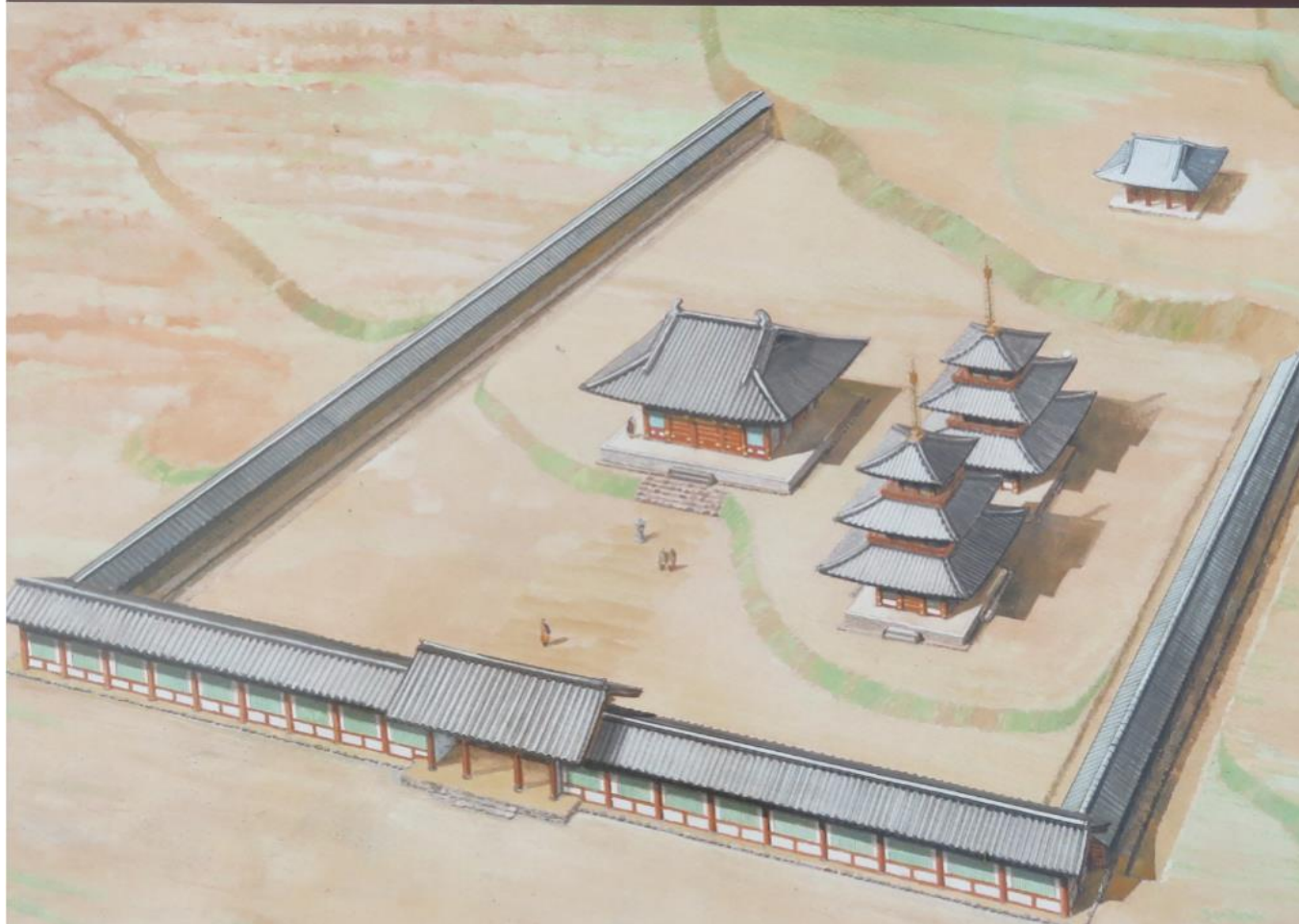
寺院の中心部





# 上淀廃寺推定復元図

Imaginary View of Kamiyodo Haiji Temple  
가미요도폐사추정복원도



かみよどはいじすいていふくげんず  
上淀廃寺推定復元図

Imaginary View of Kamlyodo Haiji Temple  
가미요도폐사 추정 복원도





これは周辺の地形模型





説明板のアップ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)

# か み よ ど は い じ し ゅ う へ ん ち け い 上淀廃寺周辺の地形

Kamiyodo Haiji Temple and Its Setting

가미요도폐사 주변 지형

「淀江」の地名は、「よどんだ入江」に由来し、古くは潟湖であったという地理的特性から、豊かな自然の幸に恵まれ、原始より人々が生活していたことをうかがわせる遺跡が数多く発見されています。また、他地域との交流を示す遺物も見つかっており、陸上・海上両面で交通の要所であったことがうかがえます。

7世紀後半、天皇を中心とした国家が成立すると淀江平野を貫く古代山陰道が設置され、方形区画に水田を整備した条里制が敷かれました。

平野を見下ろす小高い丘の上に建てられた上淀廃寺は、こうした環境・背景の中、この地域を治めた有力豪族によって建立されたと考えられます。

さまざまな説明板がある





いし じき あと

# 石敷跡

The Stone Floor Ruins  
돌이 깔려 있던 곳

石敷跡は、寺の中心部の南側を中心に確認されました。直径10cm前後の自然石(遺跡周辺から採取される安山岩)を敷きつめたもので、範囲は不整形、東西約80m、南北約45mで中心部の内外に広がります。創建時の地表面の上に10cmほど黒褐色の土が堆積した上に敷かれており、出土品からも創建から100年ほど後、8世紀終りから9世紀初め頃に敷かれたと想定されます。

境内全域に敷設する<sup>ササキ</sup>杉崎廃寺(岐阜県)のほか、部分的に敷く例がいくつかあります。当時の寺の状況も明確でなく、目的ははっきりしませんが、ぬかるみ対策といった可能性も考えられます。



石敷検出状況



石敷範囲(発掘調査から想定される範囲)



これが石敷跡





ここは中門・回廊跡





ちゅうもん かいろうあと  
**中門・回廊跡**

The gate built between the main gate  
and the main hall , The corridor

중문터, 회랑터

ここは築地塀跡







あつじ べい あと

# 跡地塀

The ruin of the fence with roofing tile

기와담터

※ここは通路ではありません。



さて、「寺院の中心部」を見てみよう





建物の配置は金堂の東に3塔を南北に並べる特異な配置をとっており、3塔の心礎は一直線上に等間隔で並ぶ/設計では、金堂と中塔の南辺をそろえ、中門の位置する中軸線は、ほぼ金堂基壇の東辺にあたるものとみられると云う/北塔については実際には建てられなかった可能性もあり、焼失時点では、金堂、中・南塔の3棟が建っていたことがわかっているらしい/講堂については、これまでの調査では発見されていないが、地方寺院の場合、変則的な建物配置をとる例も多く、中心伽藍からやや離れた場所に営まれた可能性も考えられると云う

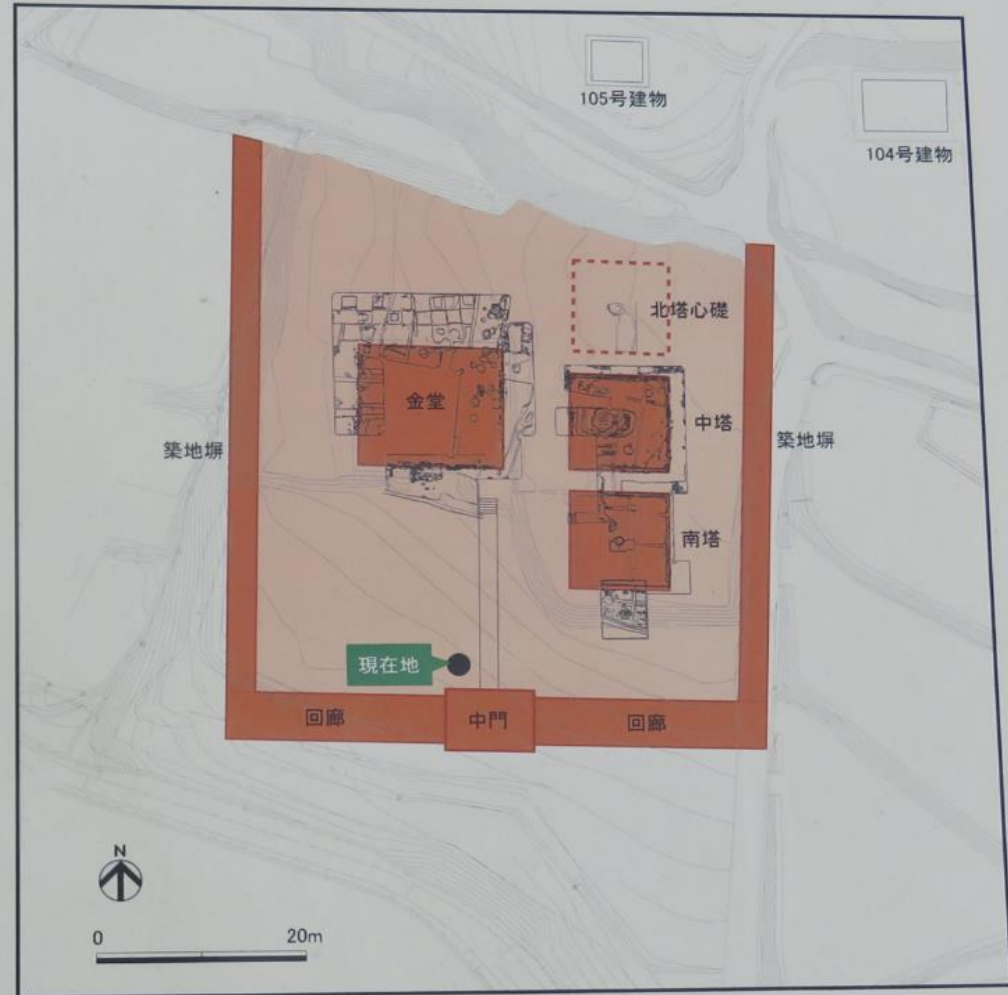
# じ いん ちゆう しん ぶ 寺院の中心部

The central area of the temple  
사원 중심부

金堂や塔などが位置する中心部は、仏の聖なる空間として回廊や築地塀で区画され、僧侶以外は立ち入ることは少なかったようです。

上淀麩寺では、およそ半町(約53m)四方あり、その南側を回廊、東西両側を築地塀、北側は丘陵斜面で区画されていました。金堂の東に3つの塔を南北に並べる他に例のない建物配置をとっており、3塔の中心の礎石は等間隔、一直線に並びます。さらに金堂と中塔の南辺をそろえ、中門の中軸線は境内の中軸にあわせ、中心部の中心から少しずれる設計だったとみられます。

また、古代寺院では、金堂の北側(背後)に講堂が造られますが、この寺院では確認されていません。



正面は金堂跡/7世紀後半に建立され、8世紀の中頃以降に改修されたと云う/基壇は塔と同様に瓦積の周囲に石列を巡らす二重構造





こん どう あと

# 金堂跡

The Main Hall Ruins  
대웅전터

金堂は本尊を安置する建物で、今日の本堂にあ  
たります。水田耕作等で基壇の上面が削られて礎  
石は動かされていたため、構造は不明です。

金堂の基壇は塔と同様に瓦積みの周囲に石列を  
巡らす二重構造になっています。瓦積基壇は南北  
12.3m、東西13.9mあります。正面(南側)には階段  
があり、上階は木造、下階は石造でした。

また、周辺から出土した壁画や塑像もぞうの破片から、  
堂内の様子や移り変わりが復元できます。焼失時  
には、本尊の高さ2.4m前後の如来坐像にょらいざぞうと3m前後  
の両脇侍わきじのほか、90cm前後の仏像群、外壁の内側  
には仏教の説話などが描かれていたことがわかり  
ます。

公開にあたっては、基壇の規模や堂内の様子の  
検討結果をもとに、正面(東西)5間、奥行(南北)  
4間の建物と推定し、礎石を復元しています。

【階段・基壇上への立ち入りはご遠慮ください】



金堂跡全景(南から)



階段検出状況

左手から見たところ





正面となる南側には、基壇に至る石敷きの階段が確認され、基壇上に至る木製の階段も想定されると云う





これが金堂の瓦積み基壇(復元)/礎石も見える





こちらにも説明板がある



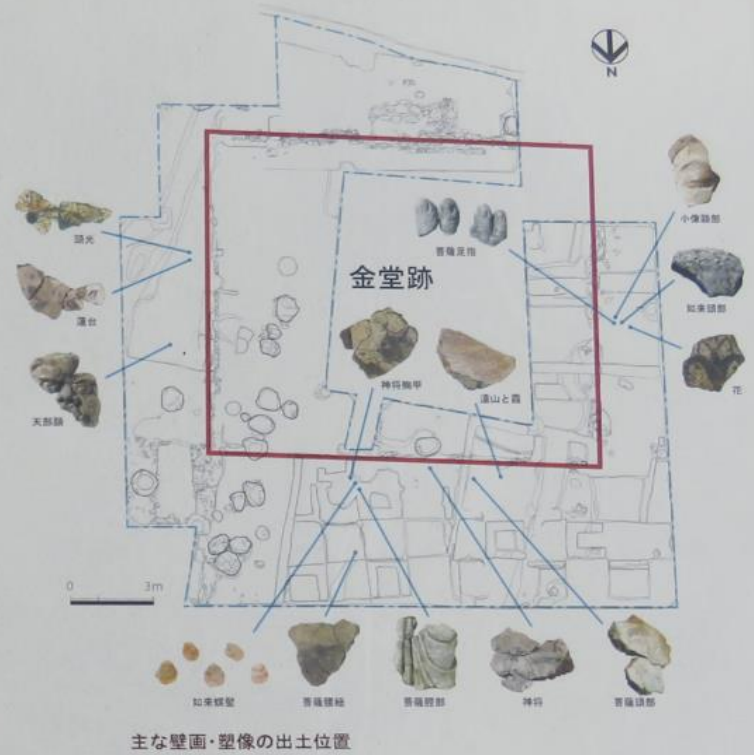
金堂周辺からは、5394点を超える壁画断片を出土している/火事で焼けたため、ベンガラ、緑青や群青などを除き当時の彩色は失われているが、出土の3分の1は彩色が認められると云う/また、金堂及び中・南塔周辺からは、約3800点もの塑像片が出土し、なかでも造形が確認できるものは769点もあるらしい/壁画は、日本の発掘確認された壁画の中でも上淀廃寺は出土量・まとまりにおいても群を抜く多さで、図柄まで特定できると云う

# へぎ が しゅつ ど ち 壁画の出土地

The excavated spot of the frescos  
벽화 출토지

上淀廃寺跡の最大の特徴は、壁画の断片約1,400点(壁土片約5,700点のうち)や塑像(粘土で作られた仏像)の断片約3,800点が出土し、古代の堂内の様子が復元できる点にあります。壁画は金堂から、塑像は金堂及び中・南塔の周囲に焼土と一緒に吹き出された状態で出土しました。壁画・塑像は本来ならば土に帰ってしまうものですが、火熱を受けたことで焼き固まって残ったものです。

金堂の北と東西から出土した壁画・塑像は、少なくとも創建時(7世紀終り頃)と奈良時代(8世紀)の改修時の2時期にわたって制作されたもので、金堂内の仏たちにも変遷があったことがわかります。また、その出土場所は本来あった堂内での位置に近いようです。



主な壁画・塑像の出土位置

■ 焼土に混じって出土した壁画・塑像



■ 出土した状況



壁画(菩薩腰紐)



壁画(神将胸甲)



塑像(如来螺髻)



塑像(菩薩右脚)



礎石が並んでいる





こんな塩梅

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





金堂の左手にも築地塀跡がある









さて、こちらは南塔跡/上淀廃寺には、南北に3基立てる計画だったようだが、実際に立てられたのは中塔と南塔の2基と考えられている/基壇は瓦積みの外側に石列を巡らす二重構造になっており、その規模から三重塔と考えられると云う/中央に芯柱を支える心礎石が残っている/中塔心礎からは、仏の遺骨を納めるための「舍利孔」とよばれる穴も確認されているらしい



なん とう あと

# 南塔跡

The South Pagoda Ruins  
남탑터

南塔の基壇きだんの規模は南北9.5m、東西9.2mの瓦積みで、中塔同様に石列を巡らす二重構造です。心礎は地下に設置され、心柱を据える穴しゃりこうに舍利孔がなく、心柱の根元を瓦で巻いて保護していました。心礎とその柱穴が北塔と全く同じ規模・構造であることから、中塔を挟んで北塔と対をなす塔であったと考えられます。基壇や心礎の規模から三重塔であったと推定されますが、基壇は中塔と2.3mしか離れておらず、軒が接するように建てられていました。塔内には小型の塑像が安置されていたものと考えられます。

基壇がよく残っていたため、盛土で保護した上に、発掘調査時の出土状況を型取りして忠実に再現しています。

【ロープの外からご覧下さい】



南塔跡全景(北から)



近接して建てられた南塔(左)と中塔



これは中塔跡とその向こうに南塔跡を見たところ



# ちゆう とう あと 中塔跡

The Central Pagoda Ruins  
중탑터

塔はもともと釈迦の遺骨(仏舍利)を埋めた墳墓を起源とします。中塔の基壇は9.5m四方の瓦積みで、金堂、南塔と同様に周囲に石列を巡らす二重構造です。心礎は南・北塔のものより格段に大きく、地上に設置されています。心柱を据えた穴も直径70cm、深さ20cmとひとまわり大きく、中心には仏舍利を納めた舍利孔が設けられています。基壇や心礎の規模から三重塔であったと推定されますが、3塔の中心となる塔と考えられます。基壇周辺から高さ90cm程度の小型塑像の断片が出土しており、法隆寺同様、塔にも塑像群が安置されていたようです。

公開にあたっては盛土で保護した上に発掘調査時の出土状態を忠実に再現しています。後世に動かされていた心礎は、本来の位置に戻しています。

【ロープの外からご覧下さい】



動かされていた心礎



基壇(東から)



南塔跡(左手)と中塔跡(右手)を見たところ



左手の南塔跡





右手の中塔跡





これは中塔跡の心礎から南塔跡を見たところ





振り返って北塔跡を見たところ/心礎がポツンと残っている







### 北塔の心礎

北塔の心礎は、本館の北側に位置する。この心礎は、北塔の基礎を支える重要な役割を果たしている。心礎の中心には、石製の柱が埋め込まれており、その周囲には土壌が固められている。心礎の周囲には、石製の柱が埋め込まれており、その周囲には土壌が固められている。心礎の周囲には、石製の柱が埋め込まれており、その周囲には土壌が固められている。





# ほく とう しん そ 北塔の心礎

The central foundation stone of the North Pagoda

북탑의 심초

北塔は、中塔・南塔の北側の整地表面上に、心礎のみが確認されました。安山岩製で、中央の柱穴は径68cm、深さ5cmあり、南塔と同規模です。

中塔の心礎は後世に動かされていますが、基壇中心に戻すと、3塔の心礎が一直線上に等間隔で並びます。またこの心礎を中心に、中塔・南塔と同規模の基壇がちょうどおさまる範囲まで北側の丘陵が造成されています。このことから、少なくともここに北塔を建てる計画であったと考えられます。

ただ発掘調査では基壇の痕跡は全く確認されていません。心礎を設置した段階で工事が中止されたか、建立された北塔が倒壊した後に心礎を残して撤去された可能性が考えられます。公開にあたっては、推定される基壇の範囲を表示しています。



南北に並ぶ3つの心礎(北から)

これが北塔心礎

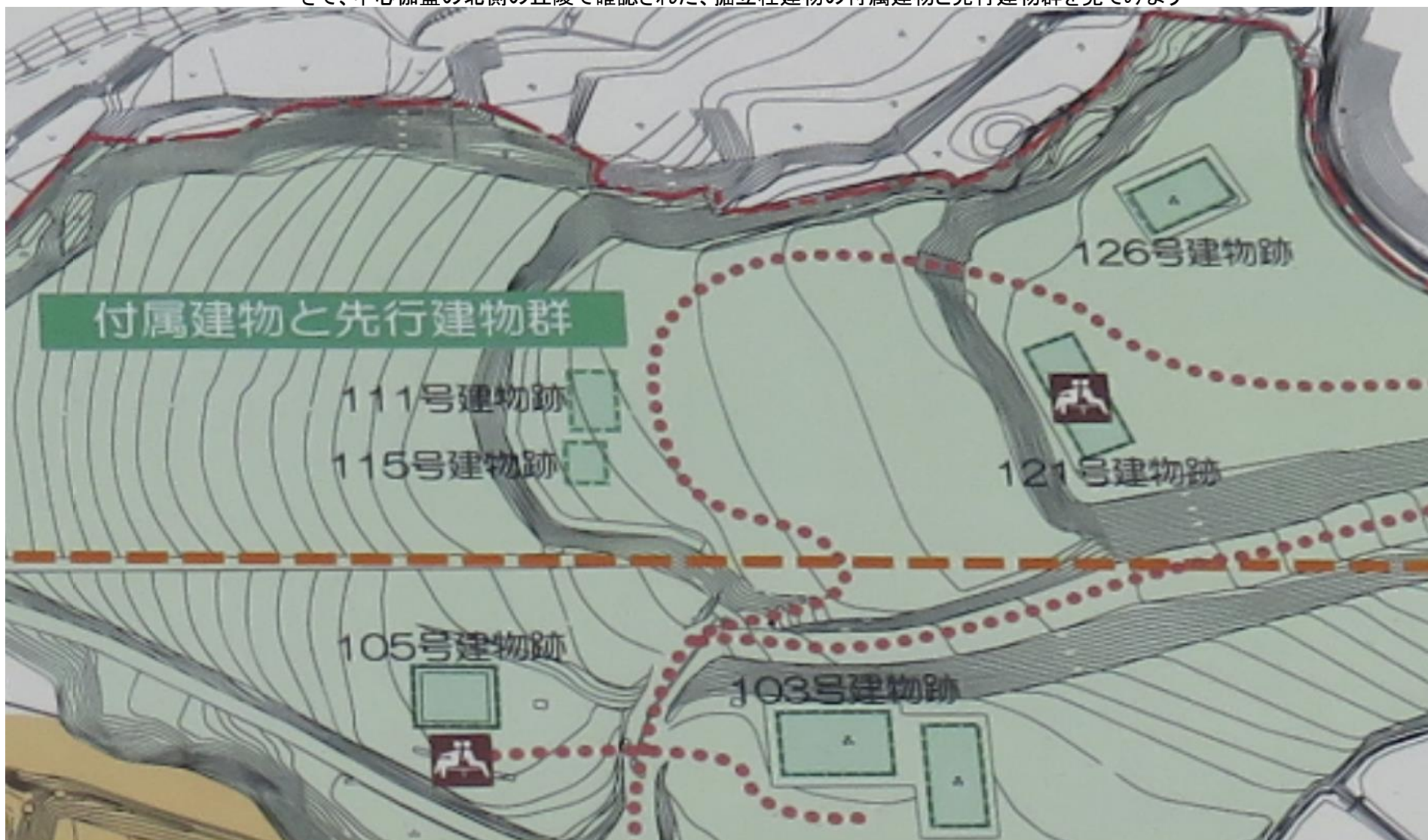




これは北塔跡から中塔跡方向を見たところ



さて、中心伽藍の北側の丘陵で確認された、掘立柱建物の付属建物と先行建物群を見てみよう





前方に標柱が立っている





経蔵または鐘楼跡

The Foundation of the Bell Tower



付属建物と先行建物群

Attached Buildings and Preceding Building Group



こちらが105号建物跡/経蔵または鐘楼と考えられる建物跡







ふぞく たてもの あと

# 付属建物跡 (105号)

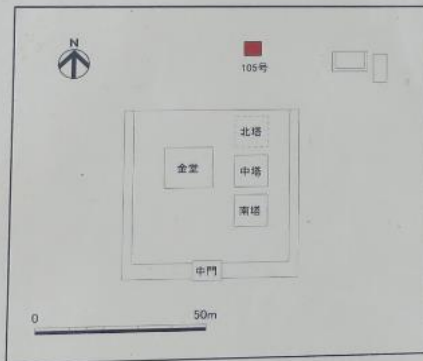
The ruins of the annex to the temple  
부속건물터

北塔背後の丘陵上に位置する建物で、<sup>きやう</sup> 経楼(お経を納めた堂)または鐘楼(鐘つき堂)<sup>しやうろう</sup>と考えられます。東西・南北ともに3間(4.95×4.2m)の掘立柱建物で、直径30cmの太い柱が使われています。

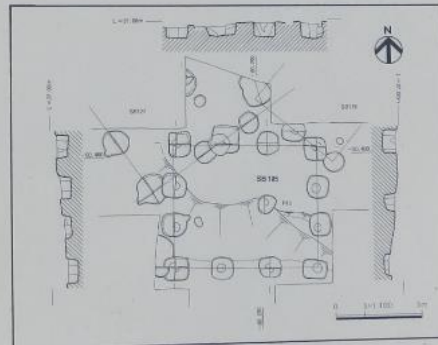
公開にあたっては建物の柱位置を復元し、休憩舎として立体表示しています。



経楼あるいは鐘楼と推定される105号建物跡



105号建物の位置



105号建物跡





こちらは104・103号建物跡/食堂または政所と考えられる建物跡



ふ ぞく たて もの あと

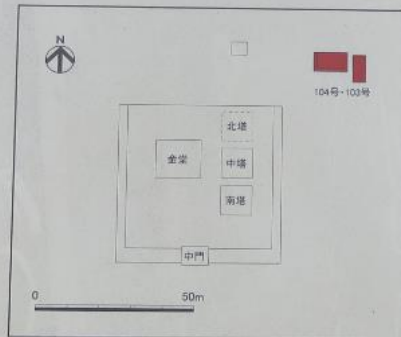
# 付属建物跡 (104・103号)

The ruins of the annex to the temple  
부속건물터

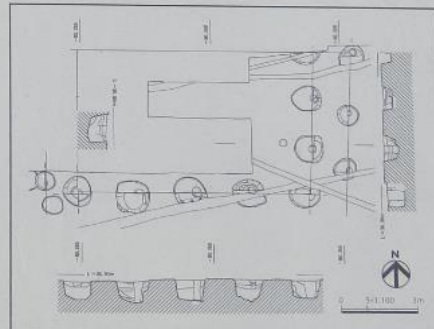
寺院中心部の北東上段に位置する建物で、  
食堂じきどう(僧侶の食堂)、または政所まんどころ(寺務所)と考え  
られます。104号建物は東西4間、南北3間(5.7  
×9.0m)の掘立柱建物ほったてばしらで、直径30cmの太い柱が  
使われていました。103号建物はこれに付属す  
る建物と考えられます。ともに瓦ぶきではなく、  
公開にあたっては、柱と壁の位置を平面表示  
しています。



食堂もしくは政所と推定される104号建物跡



104・103号建物の位置



104号建物跡



この上が付属建物と先行建物群









このエリア





ここが111・115号付属建物跡/その左手に121号付属建物跡がある







ふ ぞく たて もの あと

**付属建物跡**  
**(111・115号建物)**

The ruins of the annex to the temple No.111,115

부속건물터(111・115호 건물터)



この辺りも付属建物と先行建物群のエリア





近くの向山古墳群を営んだ豪族の末裔が、上淀麿寺の創建に関わったのであろうか

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)

# ふ ぞく たて もの せん こう たて もの ぐん 付属建物と先行建物群

The annex to the temple and previously built remains

부속건물과 선행건물군

境内の北を区画する溝の北側にある丘陵からも、多くの掘立柱建物の跡が確認されています。本来、寺院に関連する建物は、東西や南北の方位にあわせて建てられていますが、北限の溝より北の建物には地形に合わせた方向に軸をとるものもあります。

時期のわかる建物は9世紀頃のもので、この頃には北限の溝が埋まり、外側にも付属建物が広がっていったものと考えられます。また、北側丘陵の建物群の中には上淀麿寺より古く、古墳時代(6世紀頃)にさかのぼるものがあります。古墳時代の建物は、後に上淀麿寺を建立した豪族の館跡だったと考えられます。

公開にあたっては、121号建物の規模等に合わせた休憩舎を設けたほか、111・115・126号建物を平面表示しています。



117号建物跡



119号建物跡



## 参考ホームページ

<https://www.city.yonago.lg.jp/11895.htm>

<http://inoues.net/ruins/jyoyodohajji.html>

<https://www.gt-arts.jp/hcf/ruin-kamiyodohajji.html>

<https://tabi-mag.jp/tt0032/>

[http://www7b.biglobe.ne.jp/~s\\_minaga/ato\\_ueyodo.htm](http://www7b.biglobe.ne.jp/~s_minaga/ato_ueyodo.htm)

[https://blogs.yahoo.co.jp/randokku2000/40651219.html?\\_vsp=5LiK5reA5buD5a%2B6](https://blogs.yahoo.co.jp/randokku2000/40651219.html?_vsp=5LiK5reA5buD5a%2B6)

<http://blog.livedoor.jp/geibi/archives/40615199.html>

<https://plaza.rakuten.co.jp/hirokosan38/diary/201202050000/>



